

計画をもって授業に臨んでいますか

－板書型指導案活用のすすめ－

山口県教育庁義務教育課

授業計画の必要性

児童生徒に確かな学力を保障するために、授業の内容と方法を明確にし、見通しをもって、日々の授業に臨むことが大切です。そのために作成するものが「指導案」です。指導案には授業研究会などで用いられるもの、日常の授業で準備されるものなど様々ですが、

- ① 何を、どう学ばせるのか → 本時の目標（主眼）
- ② 何を、どう考えさせるのか → 展開・発問
- ③ 何を、どうまとめていくのか → 板書

の3点は、必ず計画しておく必要があります。

特に、③の板書を計画することで、めあてや予想される子どもの反応、まとめなどを整理し、授業の流れをイメージすることができます。

板書型指導案とは

日々の授業計画の方法の一つに、「板書型指導案」があります。この「板書型指導案」は、授業での板書計画を中心に、実施する授業の見通しを明確にしたものです。

<板書型指導案の例>

「

令和 年 月 日 ()

指導者

<p>1 主眼</p> <p>【①主眼】 「〇〇する活動を通して、〇〇が理解できる」のように活動と学習内容をセットにして、本時の授業の核心を、子どもの姿で書き記します。</p>	<p>【③板書】 「板書型指導案」の最も必要な要素である板書計画を書きます。授業の「めあて」や「まとめ」、構想している授業展開、予想される児童生徒の意見などを、構造的に、明確に表すようにします。</p>
<p>2 指導上の留意点</p> <p>3 評価</p> <p>【その他の項目】 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの指導上の留意点や評価など、必要な項目を書き出して、授業でできたかを振り返りましょう。</p>	<p>【②展開・発問】 一斉指導、ペアワークやグループワークなど学習形態の工夫や、子どもの学習活動を促す指示や思考を深める発問を書きます。また、予想される子どもの反応やそれに対する手立てを整理しておくことで、授業展開を明確にしておきます。</p> <p style="text-align: right;">本時の流れ</p>

板書型指導案の活用

キーワードは「**日常化**」と「**継続**」です！

板書型指導案を活用して、毎日の授業改善を進めましょう！

○指導案を日常的に作成し修正することで、授業づくりのスキルを高めましょう
特別な授業のときだけ指導案を作成するのではなく、日常的に作成しましょう。その成果は以下のとおりです。

- ① 毎時間のぶれない授業づくり、つながりのある授業づくりができます。
- ② 授業中の子どもの発言や反応、授業後の反省を書き込むことで授業記録として活用し、授業を振り返る力を付けることができます。
- ③ 教材分析、子どもとの関わり方などを見直し、授業を修正することで、授業のスキルアップに結び付けることができます。

○形式は使いやすいもので構いません

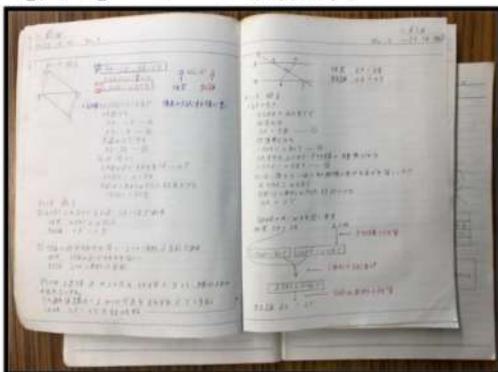
板書型指導案に決まった形式はありません。自分が一番使いやすい形で続けましょう。また、作成について、パソコン作成が苦手な方はノートを利用するなど、工夫してみましょう。【図1】

○指導に応じて進化させていきましょう

授業の形態に応じて形式を進化させましょう。例えば、複式学級では、枠を2つに分けて、それぞれの学年の学習展開と、指導者の「わたり」についてまとめることで、指導者の動きを明確にすることができます。【図2】

また、技能教科においても活用できます。例えば、体育の陸上競技の授業では、グラウンドを真上から見た図をかいて、子どもや指導者の立ち位置や動きを整理したり、活動中の指示や大切な用語の提示などについてまとめたりして、授業の流れを確認することができます。

【図1】 ノートの活用例



【図2】 複式学級での活用例

第1学年「くじらぐも」		第2学年「お半紙」		令和 年 月 日 ()	指導者
<p>【第1学年】</p> <p>○本時の目標（説明） 「くじらぐもと子どもたちのどちらか一緒に遊びたかったか」について話し合う活動を通して、物語の構成や登場人物の言動に頼りながら作品を読み深めることができる。</p> <p>■評価 自分の意見を持ち寄り話し合うとともに、相手の意見をしっかりと聞くことができたか。</p>	<p>1年</p> <p>1. 話し リーダーを中心とした活動展開</p> <p>2. 中心活動 - 登場人物の言動を読み取りながら、物語の構成や登場人物の言動に頼りながら作品を読み深めることができる。</p> <p>3. ノート整理 - 自分の考えや、相手の意見を整理してまとめることができる。</p> <p>4. 振り返り - 授業の振り返りシートを記入し、自分の学びをまとめることができる。</p>	<p>2年</p> <p>1. 話し 話し合いを通して、自分の考えや、相手の意見を整理してまとめることができる。</p> <p>2. 中心活動 - 登場人物の言動を読み取りながら、物語の構成や登場人物の言動に頼りながら作品を読み深めることができる。</p> <p>3. ノート整理 - 自分の考えや、相手の意見を整理してまとめることができる。</p> <p>4. 振り返り - 授業の振り返りシートを記入し、自分の学びをまとめることができる。</p>	<p>今日のリーダーさん</p> <p>○指導者の動き</p> <p>○子どもの発言</p> <p>○子どもの反応</p> <p>○子どもの学び</p> <p>○子どもの気づき</p> <p>○子どもの成長</p> <p>○子どもの変化</p> <p>○子どもの進歩</p> <p>○子どもの達成</p> <p>○子どもの満足</p> <p>○子どもの喜び</p> <p>○子どもの誇り</p> <p>○子どもの自信</p> <p>○子どもの自立</p> <p>○子どもの責任</p> <p>○子どもの貢献</p> <p>○子どもの社会性</p> <p>○子どもの人間性</p> <p>○子どもの個性</p> <p>○子どもの才能</p> <p>○子どもの可能性</p> <p>○子どもの未来</p> <p>○子どもの希望</p> <p>○子どもの理想</p> <p>○子どもの夢</p> <p>○子どもの志</p> <p>○子どもの情</p> <p>○子どもの意</p> <p>○子どもの徳</p> <p>○子どもの行</p> <p>○子どもの言</p> <p>○子どもの動</p> <p>○子どもの静</p> <p>○子どもの慧</p> <p>○子どもの勇</p> <p>○子どもの毅</p> <p>○子どもの仁</p> <p>○子どもの信</p> <p>○子どもの愛</p> <p>○子どもの敬</p> <p>○子どもの孝</p> <p>○子どもの悌</p> <p>○子どもの忠</p> <p>○子どもの節</p> <p>○子どもの廉</p> <p>○子どもの恥</p> <p>○子どもの勇</p> <p>○子どもの毅</p> <p>○子どもの仁</p> <p>○子どもの信</p> <p>○子どもの愛</p> <p>○子どもの敬</p> <p>○子どもの孝</p> <p>○子どもの悌</p> <p>○子どもの忠</p> <p>○子どもの節</p> <p>○子どもの廉</p> <p>○子どもの恥</p>	<p>今日のリーダーさん</p> <p>○指導者の動き</p> <p>○子どもの発言</p> <p>○子どもの反応</p> <p>○子どもの学び</p> <p>○子どもの気づき</p> <p>○子どもの成長</p> <p>○子どもの変化</p> <p>○子どもの進歩</p> <p>○子どもの達成</p> <p>○子どもの満足</p> <p>○子どもの喜び</p> <p>○子どもの誇り</p> <p>○子どもの自信</p> <p>○子どもの自立</p> <p>○子どもの責任</p> <p>○子どもの貢献</p> <p>○子どもの社会性</p> <p>○子どもの人間性</p> <p>○子どもの個性</p> <p>○子どもの才能</p> <p>○子どもの可能性</p> <p>○子どもの未来</p> <p>○子どもの希望</p> <p>○子どもの理想</p> <p>○子どもの夢</p> <p>○子どもの志</p> <p>○子どもの情</p> <p>○子どもの意</p> <p>○子どもの徳</p> <p>○子どもの行</p> <p>○子どもの言</p> <p>○子どもの動</p> <p>○子どもの静</p> <p>○子どもの慧</p> <p>○子どもの勇</p> <p>○子どもの毅</p> <p>○子どもの仁</p> <p>○子どもの信</p> <p>○子どもの愛</p> <p>○子どもの敬</p> <p>○子どもの孝</p> <p>○子どもの悌</p> <p>○子どもの忠</p> <p>○子どもの節</p> <p>○子どもの廉</p> <p>○子どもの恥</p>	

○「授業をひらく」ために活用しましょう

授業力を付けるためには、よい授業をたくさん見る、自身の授業を多くの先生に見てもらおうといった「授業をひらく」ことが一番の近道です。そして、協議を通して多くのアイディアを得るために、板書型指導案を活用しましょう。

「 人物の気持ちを考えながら読もう ～サーカスのライオン～ 」(〇年〇組)

平成 年 月 日 ()
指導者

1 主眼
物語のクライマックスを探ることを通して、じんごの様子や行動、言葉を手がかりに、火事の中に飛び込み男の子を救ったじんごの心情変化を読み取ることができる。

2 指導上の留意点

①話が最も盛り上がるクライマックスは、主人公の心情が最も変化する叙述であることを知らせ、各自が選んだ物語のクライマックスとその根拠について話し合うことができるようにする。

②じんごの考え方や行動を変えたものは何かについて考えることで、人物同士の関係性にも着目できるようにする。

③様子や行動、会話文に着目すれば人物の心情を想像できるように、板書を工夫する。

評価
行動や様子、言葉からじんごの心情の変化を読み取り、言葉や文章で表現している。

サークスのライオン 川村 たかし 物語のクライマックスをさがそう	クライマックスとは？ 主人公（じんご）の気持ちや行動が一番大きく変わるところ	・それを聞いたライオンのじんごは、ぼつと火の中へとびこんだ。 ・「なあに。わしは火にはなれていませのじゃ。」 ・じんごは力のかぎりほえた。 ・ウオーツ ・金色に光るライオンは、空を走り、たちまち暗やみの中に消え去った。
言葉（会話） 様子（たいど） 行動（したこと）	↓	男の子を助けたと思う気持ち 男の子が大事 自分より男の子が大事 思いをどけたい できるだけ力 命がなくなって、天にのぼってしまった
人物（じんご）の気持ちが分かる		

じんごの気持ちや行動をかえたものは？
 男の子と友だちになったこと
 男の子の思いやり
 男の子を守りたい気持ち

◆ピア学習の後で、全体での話し合いを組織することにより、話し合いに参加できるようにする。また、行動、様子、言葉から人物の心情が想像できることを押さえる。

③じんごの気持ちや行動を大きく変化した原因について話し合う。

◆人物のかかわりに着目させることで、物語の主題に迫らせたい。

本時の流れ
①四場面を音読し、物語のクライマックスをさがす。

サーカスのライオンの主人公の気持ちや行動が、一番大きく変わるのは、どこかな。

◆主人公がじんごであることを押さえた上で、クライマックスの文を抜き出し、その理由を考えさせるようにする。

②物語のクライマックスを選んだ理由について、話し合う。

選んだ言葉とその理由を、隣の友達と聞き合おう。

じんごの行動や気持ちを変えたものは何か。

○ICTの活用場面を含んだ板書型指導案

・授業の中でICTを活用する際は、多様な機能とその長所を理解した上で、授業のねらいや学習活動の内容に応じて機能や活動場面を選択する必要があります。どのような場面でどのような目的で使用するかを、指導案に整理しておきましょう。

板書型指導案															
「 _____ 」		令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日 () ____ 校時													
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;">単元</td> <td>○ ○ ○ ○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">主眼</td> <td>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">評価</td> <td>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><主眼等を書きます。> 何をどう学ばせるのか、授業を通してどのような力をつけるのかなど、本時の授業の核心を、子どもの姿で表します。</p> </div>		単元	○ ○ ○ ○ ○ ○	主眼	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	評価	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>【板書等】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><板書計画を書きます。> 授業の「めあて」や「まとめ」など、構想している授業において、黒板に書く内容を、構造的に明確に表すようにします。</p> </div> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>【ICT画面等】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><ICT画面に表示される内容を書きます。> 一斉指導や個別学習等において、ICT画面に表示される内容のうち、学習内容や学習課題など授業展開に大きく関係するものについて表します。</p> </div> </td> </tr> </table>		<p>【板書等】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><板書計画を書きます。> 授業の「めあて」や「まとめ」など、構想している授業において、黒板に書く内容を、構造的に明確に表すようにします。</p> </div>	<p>【ICT画面等】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><ICT画面に表示される内容を書きます。> 一斉指導や個別学習等において、ICT画面に表示される内容のうち、学習内容や学習課題など授業展開に大きく関係するものについて表します。</p> </div>				
単元	○ ○ ○ ○ ○ ○														
主眼	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
評価	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○														
<p>【板書等】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><板書計画を書きます。> 授業の「めあて」や「まとめ」など、構想している授業において、黒板に書く内容を、構造的に明確に表すようにします。</p> </div>	<p>【ICT画面等】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><ICT画面に表示される内容を書きます。> 一斉指導や個別学習等において、ICT画面に表示される内容のうち、学習内容や学習課題など授業展開に大きく関係するものについて表します。</p> </div>														
<p>【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><ICT活用のポイントを書きます。> 一斉学習【A】個別学習【B】協働学習【C】について、どのような場面で、どのように活用するか、またICT活用のポイントを記載します。</p> <p>*記入例 ・個別学習【B】で、～するために～を共有する。</p> </div>		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center; background-color: #e0f2f7;">学習のきっかけ</td> <td style="width: 25%; text-align: center; background-color: #e0f2f7;">解決</td> <td style="width: 25%; text-align: center; background-color: #e0f2f7;">共有</td> <td style="width: 25%; text-align: center; background-color: #e0f2f7;">振り返り</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">○学習活動</td> <td colspan="3" style="padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><学習活動とICTの活用場面を書きます。> 活用場面を、一斉学習【A1】個別学習【B1～B5】協働学習【C1～C4】に細分化し、活用方法を記載します。(※下段参照)</p> </div> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">◆留意点</td> <td colspan="3" style="padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><指導上の留意点や指示などを書きます。> 学習活動に対する留意点や指示、ポイントなどを記載します。</p> </div> </td> </tr> </table>		学習のきっかけ	解決	共有	振り返り	○学習活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><学習活動とICTの活用場面を書きます。> 活用場面を、一斉学習【A1】個別学習【B1～B5】協働学習【C1～C4】に細分化し、活用方法を記載します。(※下段参照)</p> </div>			◆留意点	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><指導上の留意点や指示などを書きます。> 学習活動に対する留意点や指示、ポイントなどを記載します。</p> </div>		
学習のきっかけ	解決	共有	振り返り												
○学習活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><学習活動とICTの活用場面を書きます。> 活用場面を、一斉学習【A1】個別学習【B1～B5】協働学習【C1～C4】に細分化し、活用方法を記載します。(※下段参照)</p> </div>														
◆留意点	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><指導上の留意点や指示などを書きます。> 学習活動に対する留意点や指示、ポイントなどを記載します。</p> </div>														

※ **ICTを効果的に活用した学習場面の分類例**

一斉学習	【A1】教員による教材の提示				
個別学習	【B1】個に応じた学習	【B2】調査活動	【B3】思考を深める学習	【B4】表現・制作	【B5】家庭学習
協働学習	【C1】発表や話し合い	【C2】協働での意見整理	【C3】協働制作	【C4】学校との壁を超えた学習	